

奥多摩町立小学校のあり方検討委員会（第2回） 会議録

令和4年11月1日

午後7時00分～8時30分

記録者 教育係 鈴木

奥多摩町役場地下1階 会議室

出席者：教育委員会：野崎教育長、新島教育課長（委員長）、安部指導主事、鈴木教育係長

委員：渡辺 英俊（副委員長）、木村 光恵、谷田貝 美鈴、乙津 秀敏、松井 良、
西村 元一、石上 和伸、師岡 さと子、志茂 剛之、本郷 達矢、濱田 聡子、
清水 弥真人、島崎 勘

欠席者：橋本 永吾、小林 隆行（敬称略）

1. 開会あいさつ 鈴木教育係長

新教育長あいさつ 野崎教育長

皆さんこんばんは。10月1日に教育長を拝命いただきました野崎です。皆さんご存知かと思いますが、私は山梨県丹波山村で5年間仕事をしていました。教育長3年とそのあと道の駅と温泉を任せられてやっておりましたが、東京はすごいと思うことがたくさんあります。私は羽村市で子育てをしたのですが、そこでは中々分からなかったことが、中に入ってみて色々なところがすごいなと感じることがたくさんあります。

まず最初に予算です。都からくるお金や国からくるお金をみても、東京ってすごいなという印象をもって改めてまた帰ってきたと実感しております。

また、これまで何度も奥多摩町を通ってきましたが、この町は憧れでした。駅も5つありますし、バスも通っている、それから何よりどこの道路を見ても、駐在さんが必ず立って見送ってくれている、通勤でいくつかの市町村を跨いできますが、その姿って奥多摩町に来ると顕著に違うんですね。そういうところはすごく皆さん誇りに思っているのではないかなと思いました。

あり方検討委員会ですが、議事録をいただき3回読ませていただきました。皆さん本当に忌憚のないご意見をいただいて、今の現状をしっかりと見ていただきながら、そもそもどうあるべきかということですね。これは皆さんの中にも言っていました統合なのかそうじゃないのか、それともどう運営していくのか、いろんなことに触れられていたんですが、学校とは一般的にどうあるべきものなのか、それとも奥多摩の町は今どうあるべきなのかということを含めて、深めた時に課題が必ず出てくる、見えてくると思っています。子どもの生きる力を身に付けるということは、どんなあり方なのか、そしてまた、町づくりには学校が中心になっていきます。そんな中で今の姿を無防備に過ごしてしていくわけにはいかない、そういうことも含め、町では移住の施策を熱心に取り組んでいます。その中でどのように過ごしていけば良いのかを含めて、皆さんの先見性と勇気と行動力、お力とお知恵で、今ある姿を深めていただきたいと考えております。どうかこの会が意義あるものになりますように、皆さんにお願いしたいと思います。今夜は貴重なお

時間を有難うございました。

2. 委員長あいさつ 新島教育課長

皆さんこんばんは。お忙しい中、お集まりいただき有難うございます。

第1回目の会議では、色々とご意見をいただきましたので資料等をご用意させていただきました。本日も忌憚のないご意見をいただきたいと思います。よろしくお願いいいたします。

3. 報告事項 鈴木教育係長

前回の委員会の中で、統合に関わる資料や定住対策の人口の情報提供等をとというお話がありましたので、事前にお配りさせていただきました。資料につきましては、皆さんも目を通していただいているかと思いますが説明をさせていただきます。

(1) 奥多摩町教育環境アンケート及び中学校統合検討経過等について 【資料1】

- ・安部指導主事より説明（集計結果）

P4 問1-（1）小学校で経験させたいこと（優先順位 1～3番）

優先順位1番 基礎的な学力が7割超えである。

優先順位2番 ①友だち等との協調性、②社会一般常識、③情操・道徳教育の順に回答。

優先順位3番 ①集団の中で自分を表現できる教育、②友だち等との協調性と回答。

P6. 小学校の満足度について

●満足していること

多数意見：「子どもたち一人ひとりに目が届き、きめ細やかな指導ができています」と回答。次いで、「学校間連携・異なる学年間の縦の交流」、「校外学習などの活動の場や経験の機会が増える」との回答結果を得られました。

●希望すること

小学校に対して、「少人数のため競争心が足りなく心配である」、「少人数だからこそ個性を伸ばしてもらいたい」、「他校との交流を増やしてもらいたい」、「奥多摩の自然を生かした体験を増やしてもらいたい」等、少人数による課題や少人数だからこそ積極的に取り組んでもらいたいとする意見が多く見られております。

P12. 問8 小学校は小規模校と言われる学校規模で運営されていますが、今後どのようなあり方が子どもたちのために望ましいと思われませんか。

①現状維持 ②適正規模に見直す（統合等）が望ましいと回答した人が最も多く34.3%と同率、次いで③学校間連携を推進する25.4%となっております。この結果を見ても、保護者の中でも意見が大きく分かれており、全体では統合等については慎重な姿勢が伺える結果が得られておりました。

●自由意見

男女比のことや、通学面のことなどが話題になっていることが読み取れます。

P16. 問9 これからの奥多摩町の小・中学校のあり方について、皆様のお考えや提言等をご自由にお書きください。（意見回答154件）

【意見の内容を整理・集計結果】

- ・「現状維持」に関する意見 22件（14%） ○通学の不安 ○少人数によるメリット
○学校間連携の推進
- ・「統合等を望む」 63件（41%） ○少人数による部活動の問題
○切磋琢磨する環境を望む
- ・その他 69件（45%） ○子どもが少なくて仕方ない
○遠距離通学となった場合の不便さ 等

親の負担を危惧している意見も多くあり、「統合等を望む」の意見の中にも一部では急激な統合等については慎重な姿勢も見受けられますといったまとめが平成24年10月段階では得られております。

○中学校統合に係る検討経過 【資料2】 安部指導主事より説明

先程のアンケートがこの前段階のものとなります。

H24.11.1 教育委員会から中学校統合に関する報告書を町長へ提出

H24.12.4 小・中学校のあり方検討プロジェクト設置第1回～H25.1.11 第3回会議実施

H25.1.30 保護者説明会

H25.2.22 中学校統合検討委員会第1回～同年11.26 第10回を実施、保護者説明会等も実施

H26.4.21 中学校統合準備委員会第1回～H27.3.27 第4回（最終回）その間、部会等実施

○保護者説明会 質疑概要について 【資料3】 安部指導主事より説明

〔統合の時期等について〕

- ・H26.4月開校のスケジュールでは準備に時間がかかり難しい。
- ・統合には賛成派だが準備期間が短い。
- ・統合時期は決定しているが、中身が決まっておらず心配。
- ・受験を迎える保護者より、重なることで不安を抱えている。
- ・H26というのは早急すぎる、H26年度目標を撤回していただき、検討委員会発足後に年度を決定すべき。
- ・中学校の拠点による通学に関する不安がある等

このように時期、受験、通学についての意見が話題に上がっておりました。

(2) 定住対策人口について 【資料4】 鈴木教育係長より説明

現在、町で行われている定住対策事業、各住宅関係の戸数・人口数となっております。

※定住対策事業での内訳：合計戸数359戸、319世帯、計847人

(847人の形態：町内転居415人、Uターン102人、Iターン330人)

R4.10.1 現在 奥多摩町人口 4797人 (内847人が定住対策事業 17.7%)

R4.10.1 現在 年少人口 (0歳～14歳まで) 338人 (内261人が定住事業人口 77.2%)

(3) 議事録の公表について

本日お配りした議事録内容ですが、委員の方のお名前等は削除しております。

このような形で、今後住民や保護者の方々が不安になることがないように、町のホームページに

掲載（紙ベースで図書館に設置）をして広く周知していきたいと思います。

報告事項は以上です。何か質問等はございますか？ …全員特になし…

4. 協議事項 新島委員長

(1) (仮称) 新たな奥多摩教育検討委員会について 【別紙1】 鈴木教育係長より説明

第2回委員会協議内容：今後の小学校あり方を検討する上記（仮称）の組織（案）を検討する。

1. すでに教育委員会での決定事項は、「(仮称) 新たな奥多摩教育検討委員会」を将来的に設置する。ただし、この委員会の設置基準や構成は「小学校あり方検討委員会」が（案）を作成し、小規模校のメリット・デメリット等確認、評価を行う。

2. 第2回委員会検討内容

(1) 委員会の設置基準

①どのような状況になったら設置するのか

②委員会の構成内容

3. 今後決定すること

4. その他委員より提案事項

(委員長)

ただ今、事務局より本日の協議内容について概要を説明させていただきました。

前回お話をさせていただいたとおり、今回の委員会では主に設置基準（二つの柱）ということでもまず一つは、「次の委員会の設置基準等を検討すること」また二つ目は、「現在の小規模校のメリット・デメリット」というような二つの柱があります。本日につきましては、事務局で用意してあります別紙1の資料を基に、まずは委員会の設置基準について先程報告事項であった内容等を踏まえて、忌憚のないご意見をいただければと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

なお、こちらに書いてある①のア～エは、あくまでもイメージがないと分からないという意見が前回の委員会で出ましたので、参考例として挙げてみました。皆さんぜひご意見をお願いします。

(委員)

9月16日付の新聞にこの会のことが載っていて、統合有無や存続策を検討とのことで、題名は検討となっていますが、町長の発言は、統合を目指しているような内容の文面となっています。これは、もう統合ありきでやっているということではないですよね。それを確認しておきたいです。

(委員長)

こちらの新聞については、議会の傍聴を踏まえてお書きになった記事だと伺っております。これはあくまでも傍聴した新聞記者が書いたということで理解しております。先程委員さんからあったように、あくまでも統合ありきということはありません。前回もお話したとおり、この委員会では統合や存続であるとかを検討する委員会の基本的な基準や、委員構成というものを検討していただくのがこの委員会ですので、町としては統合ありきということは一切ありません。そこはご理解をいただければと思います。

(委員)

あちらが勝手に載せたということですか。

(委員長)

そうですね、議会を傍聴していた新聞記者の方が、そのようなご判断をされて書いたというように承っております。新聞掲載にあたり、こちらに事前連絡もありませんでした。そのようなこともありますので、先程事務局より説明したとおり、町ホームページへ議事録等を公表し、広く住民の皆様へお知らせしてまいります。

(委員)

新聞報道の関係ですが、それは町民皆さんに向けての議事録を公開するのですか？新聞なので、町外の所でも奥多摩町はそうなんだと思っている人が大勢いる状況になっていると思うので、町長が取材を受けて、はっきり違いますと発信しないと誤解されたままになってしまう。学校が統合になってしまうと思うと、移住者ももっと減少してしまうのかと思うのですが…。

(委員長)

こちらの新聞にも書いてあるとおり、町ホームページや町図書館などで閲覧用の議事要旨を設定するとなっているので、これを読んだ関心のある方は、そののこのところを見ると理解しております。表現の自由ということもありますので、教育委員会が一方的にこれは違うというべきではないというように考えております。町長より発信するというようなことも、教育委員会では考えていないところであります。

(委員)

先日、自治会長連合会の会長さんが学校にみえて、庁舎建替えの件のお話しながら、建設予定地を設定する中で、「小学校あり方検討委員会で、もうすでに2校統合するための委員会が立ち上げられているのでは？そこで使わなくなった学校を建設地にしたら？」と。自治会長さんの間でも統合するための委員会と捉えておられました。「いや違うんですよ。町としては現状維持をきちんとするために、これからどうしていこうかという委員会なんですよ。」という話をしたところそのメッセージは全く届いてきていないというお話でした。そのメッセージを町民の皆さんにご理解いただいた上で、きちんとどこかで発信していかないと。町民皆さんは統合ありきで話しが進んでいるという捉え方が色々なところで耳にするので、心配だと感じます。

(委員長)

自治委員会議にて、全体の話の中で統合ありきではないときちんご説明しております。何らかの誤解があるのかと思います。来月自治委員会議が開催されますので、再度自治委員会議の中で自治会長はじめ関係機関にそのようなお話をしていきたいと思っております。

(委員)

統合ありきではないと発信のされ方をいつも言われますが、それはちょっと中途半端な聞こえようになるので、意思をするんだというメッセージで伝えてもらった方がより分かり易いのかと思います。統合もひとつの選択肢だよ、というような発信のされ方になっていて、即ちそこに行くんだよという捉え方になっているように感じました。

(委員長)

統合ありきではないということは教育委員会での決定事項となっていますので、その意味で発言をさせていただいております。教育委員会の基本方針とすれば、将来的な話になる検討委員会ですので、丹波山村や小菅村のように少なくなってしまうても統合しないと言い続けられるかと

いうのは難しいとの見解がございましたので、やはり未来のことについては、きちんとした検討委員会を立ち上げ、みんなで考えていこうという教育委員会の方針がありましたので統合ありきではないという表現になっております。誤解を招くということであれば、今後補足説明をしていくこともできますので、そのようなことをご理解いただければと思います。

(委員)

教育委委員会の考え方というのはそういう表現になってしまうというのは分かるんですが、では、この会として、あくまでも現状維持するためにはどうするかということを中心に話合われているという発信はできるのではないですか？

(委員長)

この検討委員会はそもそも現状維持をすとか統合をすとかを議論する協議体ではなく、こちらに書いてあるとおり検討する準備会であります。町全体で議論しなくてはいけないので、委員の選出をしたり、こういう基準になったら委員会を発足した方が良いというようなご意見をいただきたいと考えております。

(委員)

そうではなく…目指している目的というのは、そういう方向を向いていますよということの発信はできないのですか？この委員会として、あくまで国や都の基準だったりとかを照らし合わせてそういう可能性が出てきている現状でそれを検討するための委員会、委員構成を考える上であくまでも現状維持を目指して話合いをしていますよという発信は出来るのではないですか？

(委員長)

委員皆さんの意見があって、それが重要だということであれば意見のひとつとして当然問題ないと思います。ただ現状維持ということになれば、現状維持をしなければいけないという教育的な視点での協議体も必要ではないかと。この委員会の中で、現状維持目指すための次の新たな奥多摩教育検討委員会の基準を作っていただくというご提案をしていただければ、特に問題ないのかなと考えます。

(委員)

この会が詰めますというところで、もうすでに統合という言葉が入っていて常にそれが付きまわっているんですね。ここで参加している委員は何度も説明を受けているのでそうではないと理解していますが、どうしても統合とは結構強い言葉なので、聞いた人はやはり統合するのと聞かれます。

(委員長)

もしそういう誤解があるなら、保護者の皆様が集まる機会があれば、教育委員会の方でいつでも出向きご説明したいと思います。教育委員会に直接そのようなお話は来ないので、学校を通してそのような不安ですとか認識の違い等があれば、しっかり説明をさせていただきたいと思います。

(委員)

この委員会として話合った上で、このような方向にするという言い方はできないものですか？教育委員会がこの会を設置しようという内容に統合という言葉が入っているので、そこを抜いてこの委員会として、このようなことを目指しているという発信の仕方をできればしてほしいので

すが。

(委員長)

この委員会は、全体の検討をしていただくための次の委員会の基準を定めてもらうということがあるので、じゃあこの少ない委員会の中で統合の検討をしないという意見というのは委員長の立場としてどうなのかなと。やはり全体を広く町民皆様と考えていきたい、ですのでその次の協議体の中でこのようなお話をしていきたいと考えていますので、ここで一方的に委員長の立場として統合しないというのはなかなか難しいのかなと思います。

(委員)

統合しないとは言っていないです。統合ありきではないと、統合を全面的に出してしまってるからこうなっているのではないですかというお話です。

(委員長)

両方考えるという事なんですね。

(委員)

両方考えるんですけど、やはり統合という言葉が強いので、その言葉が全面に出てしまうと、どうしてもそっち寄りの聞き方をしてしまうと思うんです。あくまでも統合しなくてはいけない状況が近づいているからこの会が設置されたんだというイメージになっちゃってるんですね。

(委員)

そうですね。いま氷川小の児童数が減少しているというのが一番最初に出てきたので、なんか統合とかそっちの方向に行くためのイメージがあって、統合ありきではないというその言葉がどうも・・・存続とか統合という言葉無しで、これからの奥多摩の教育を考えましょうというような検討をすれば多少違うのかも知れませんが、最初に氷川小児童数が、これだけ減少してきてるとその説明が強く出ているので、ありきではないという言葉を出してもそれがちょっと打ち消せないという感はあるのかなと思います。

(委員長)

前回の統合の時にアンケートを取って、教育委員会主導で行なった部分がありましたので、今回は白紙の状態で皆さんのご意見を伺いたいということが基本にあります。その中で次のステップとして、存続するというご意見も当然出るという事は想定してますので、じゃあ存続するために委員会を作りましょうというご提案いただき次のステップで存続させる委員会を立ち上げるという事であれば問題はありませんが、ただ、事務局としてはどちらか一方的という事ではなく、両面的な部分を分析・評価をしていこうと考えておりますので、どちらかに偏るとは考えておりません。次の委員会の中でもう存続するためにこういう事をやっていこうという風に委員会で決定されれば、当然それを教育委員会に持ち帰って町としてこういう形で作っていくという事が出来ますので、そういうご発言をいただければ非常に助かります。ですのでまずは次の検討する協議体の基準を検討していただきたいと思います。

(委員)

今現状としてまわりのイメージが統合に偏っているのを何とかできないかとまず一番にあるんですよね。そのためにそういう発信はできないのかと。

(委員長)

それはできます。町としては統合ありきという言い方が悪いのかもしれませんが、次の部分の存続するための検討委員会を立ち上げるとここでご提案していただければ、それを委員会として検討するための委員会を設置しますと打ち出せるのですが、この中で基準が全然決まらないとなると、全員の総意ではないので町の方からその部分だけ特化してご発言するのは難しいと思います。委員会の総意として、次の委員会は存続するための委員会を作るんだとなれば、そういうご発言をしていただければといいのかと考えます。

(委員)

今、どちらかというとは統合の方に寄ってしまっているからどちらかというとは存続するための委員会を作るんだと打ち出した方が、今出来上がりつつあるイメージが打ち消されるのではないのかと。前回の時の話合いでも、まずは存続のための取組をして、もう本当にきつくなった時のために2段階に考えていく。どちらかというとは、存続するための委員会を早く立ち上げていかないといけないという事が出てたので。多分そこでまとまるのではないかと思います。

(委員長)

存続するための委員会を、どういう基準で立ち上げるかをというのをご発言いただけたらと思います。

(委員)

町の方とすると、子どもは小学校二つというのはすごく大事で、皆さんそのようにしましょうという気持ちが大いと思うのですが、そこは、それで進んでいきましょうという事での一歩でやった方がいいかなと私は思います。

(委員長)

有難うございます。では方向性としては、反対意見がなければ、とりあえず主にそちらの方を検討していく、ただ検討する協議会の時期ですとか、設置基準とは同じことですので、うちの方は統合ありきじゃないという言い方よりも、統合するのか存続するのかを検討してほしいという言い方をずっとしてたと思いますが、資料の中でも二つの柱（存続する・統合する）という両方を検討しましょうということで話を進めてきました。存続するための委員会を立ち上げるのであれば、どういう時に立ち上げた方が良いというご発言をいただければと思います。

(委員)

その基準の前に、名称の件で「(仮称) 新たな奥多摩教育検討委員会」という事でのたたき台としてご用意していただきましたが、「存続のための検討委員会」というように銘打って設置するという事でしょうか。これは一つの意見ですが。

(委員長)

これは、町の長期総合計画の中の項目にありまして、今の町長も第5期長期総合計画を継承するという事を打ち出していますし、町とすれば第5期長期総合計画というのは、現時点での最上位計画なんですね。その計画の中ではこういう名称にしております。ただ今言われたように、目的的部分というのはあくまでも次回の存続をするための検討委員会かというのであれば、その部分を打ち出すのはできます。仮称ではありますが、実際これで進んでいるのは正直なところで。この検討委員会の前段で存続をするための検討委員会が必要だとあればそのような形で委員会を設ければいいのかなと思います。また名称については教育委員会に持ち帰って、委員さんか

ら意見が出たのでというお話はさせていただきます。

次のステップということで、存続をするための検討委員会を立ち上げた方が良いのではないかと委員さんからのご意見が出ましたが、ではいつ、どのようなときに立ち上げたらいいのかという視点でご発言いただければと思います。

(委員)

全然わからないですけど、存続すると教育なんかも変わっていくんですか？テーマが変わってくると。

(委員)

今は連携、連携でやっていますからね。議事録にも色々出ていたかと思いますが、今2校完全にあるので、先程の資料に出ていたH26の保護者の話でも連携は深めていっていただきたいといったのがあって、あれをベースに脈々と時が経ち、今現在さらに移動教室等も進化しているので、その路線でいっていると思うんです。ただそれが統合に向けてとなれば明らかに変わるだろうし、スタンスによって変わっていくのはその通りでしょうね。ただ、今こういうお話が無い段階の、前回の中学校が統合したあと、そのまま教育課程が組んでいっている積み上げなので、今現在のスタンスがここで何らかの方向性が変われば、やはり教育委員会から下りてくるものが変わり、それを受けて我々は組み立てるので、変わるといえば変わります。

(委員)

教育活動のお話で、すぐ変わる部分も、もちろん変わらないかもしれないですけど、それ以外にやることは結構あって、例えばPR、定住化等やっていますが、奥多摩町教育委員会がやっている部分をどれだけさらに打ち出していかという事なんかも入ってきますね。それから、例えば現実的にはどうなのかとかいろいろ問題もあると思うんですけど山村留学とか、区域外就学とか現実性は別として、色々なアイデアをやりつくしていくことが大切なのではないかと思います。それを検討していくような会ということになるのではないかを思います。教育活動以外にも色々やることがあるのではないかと思います。

(委員)

これは、小学校ということで話合いをしています、17%の方が町外から定住対策事業で来ていただいているということですが、幼稚園も定員割れしています。70人のところ、50人くらいしかいません。私は武蔵村山で20年保育園をやっていたのですが、武蔵村山市の出生率は3%くらいしかないんです。でも3歳から伸びるんです。なぜなら立川とか引っ越してくる方が非常に多くて、土地があって安くて一戸建てを買う、アパート・マンション生活していた人の定住化が進んでいるんです。

アンケート資料にもありましたが、現状維持34.3%、統合等34.3%と半々になっています。基本的には、せつかく町が一生懸命人を増やしてどうかしようというのであれば、それに私達も定住維持、さらには子どもを増やしてどうかできるように、保育園の立場でも雰囲気の良い保育を目指し、町にも協力してもらい、自然豊かな奥多摩の保育園なら良いと思ってもらえる、それで定住に繋げてなおかつ小学校の現状維持にできるのが一番人口増加に繋がってくるのだから良いのかと思います。新庁舎建設の会議にも出ていますが、統合して空き校舎を建設地へとの話が出ましたが、庁舎をR8年までに完成させることが大前提、小学校の問題について

は時間軸が違うので全く別の話ですと却下となったわけです。お金のかかることなので、町全体でどこかそれと合わせて他に時間軸を合わせることはないのですか？

(委員長)

町の長期総合計画の中では、保育園2園、小学校2校を存続することが大前提となっております。時間軸が違うというのは、R8年までに統合を検討するとは考えていないんです。教育委員会としては今言ったように、検討委員会は白紙の段階で皆さんからご意見をいただいている中で、R8年に庁舎が建つ、それまでに統合するという事は一切考えておりません。それで時間軸が違うというようなご発言だったのかと思います。

(委員)

教育委員会では存続させたいということをもっと高らかに言ってもらいたいのですが。

(委員長)

教育委員会ではなく、町としてですね。教育委員会としては存続させたいです。ただこの委員会の検討の中身としては、色々な方法があるということで検討していただきたいということなんです。町として教育委員会ではこの委員会抜きでは、存続するということが大前提です。この検討委員会の中では統合も含めて、検討していく委員会だにご理解いただきたいと思います。ですので、町長を始め教育長も統合しないという事でご発言をしています。

議員質問では、たしかに通常は教育長が答弁するんですが、再質問で議員さんより町長のお考えは？とのことでしたので、町長がご発言したものを、新聞記者の方が捉えて記事に書いたものと私は議場の中で見えます。

(委員)

話が被るかもしれないですが、町としては存続していくことが第一で、統合しようとは考えていないということですよ。であればそれをもっと発信していくことは可能なんですか？

(委員長)

この会とは関係なければ可能です。町も教育委員会も統合しますとは一切言ってないですし、アンケートも取っておりません。逆にこれから二つ目の柱として、アンケート調査等をしたかったので、そこで保護者の皆さんや学校の先生方の視点、または子どもの視点から、この部分というのをメリット、デメリット等を把握していきたいという事もこの会議の中で決めていきたい。例えば、アンケートの設問ですとかもご意見をいただきたいと思います。まずは、次のステップの委員会の基準を決めていただけると助かります。

(委員)

とりあえず、町としては現状維持をしていくことが大前提だという事ですが、この記事が出たことでこのようなイメージになってしまったことを払拭するために、町として発信していただきたいと思うのですが。

(委員長)

先程お話したように、この委員会議事録ですとか、教育委員会の方ではPTA総会の中でもそういう説明はしたつもりなんですけど、原則的には維持していく、ただ検討は必要だろうというようなことで考えております。

(委員)

結局、先程も言いましたが、統合ありきではないと全面に押し出しすぎたために、皆さん統合の方がイメージとして頭に残っているんです。そうではないと町としてしっかり発信してもらえれば、この会に対するそのイメージも変わると思うんですが。検討委員会で、町とか町長からも発信してほしいというような意見が出たということではできませんか？

(委員長)

この会議録はすべて公開します。当然公開する前に理事者に確認しますので、委員さんが言われたように、教育委員会だけで収まることではありません。ご発言された内容は、町長、副町長、教育長は認識されますので、ご発言が届かないということはありません。町長が誤解をされるようなご発言をされたとあれば、町長にはお話しをしますが、私が議場で聞いている限りでは、統合するというお話ではなくて全体の中でそういう検討をするというような部分を統合だけひとり歩きしてしまったのかと。決して町長は、議場の中で統合するという発言をしたという認識はありませんし、記事の内容で一喜一憂することは事務局としてはありませんので、教育委員会としては信念をもってやっていく、ただ町長のご発言がそのように捉えられたのは事実というのは受け止めます。

(委員)

少し話が変わってしまってるような…皆さんが言っていることはよく分かりますが、頭を柔軟にして考えたら、今私たちが話さなければいけないことは、それは発信することではなく、今町はこういう考えで、数字の上では東京都にしても、統合というのはイコールになるんだけども今現在、古里と氷川にしても、保育園、小学校にしてもそうですが、私は中学校統合の時も賛成ではなかったんですけれども、2校あるのなら少ない中で、それでどうにか奥多摩としての教育が成り立っていくのであれば、そこを我々がどうしたらそれが保っていけるのかを検討するものだという理解でこの会議を引き受けたのですけれども、もちろん新聞に掲載されて色々な方から誤解が出ているけれども、もし町民に聞かれたら、町はそういう方向性ではないんだと言えば、それで済むように思います。今我々が考えなくてはいけないことは、統合というのは最終手段だと思うんです。これだけ人数が減ってしまった段階に行った時に初めて結びつくものだけでも、今の現状をきちんと把握した上で、どうやったら残せていけるのか、どうやったら子どもにより良い教育ができるのか。もちろん大変な所もたくさん出てくるかと思うんですが、それを検討して、そのための委員にこういう人を入れたらいいかというのが委員長のお考えのような気がします。話を聞いているとどんどんずれていくようで私たちは発信とかではなく、今どうしたらいいかを話合う場に変えていかないと、全然事が進んでいかないように思います。もっとこの糧になることを検討しないと時間の無駄のように思います。

(委員長)

本当にその通りなので、もし委員の皆さんも聞かれたら、統合ではないことを言っていたいで結構ですので、この会では基準とかをそういう部分を検討していただきたいなと思います。

(委員)

検討委員会とするから、そちらに向かってしまうのかと思いますけど、もっと違う会の名前の方が良かったのかもしれないです。それを委員になった者が理解していれば、大きな問題ではないような気がします。

(委員長)

はい、有難うございます。委員さんからもそのようなご発言もありましたが、時間も過ぎて参りましたので、それでは、どういう形で設置基準を設けたらいいのかというのをご発言いただければと思います。

(委員)

それはあくまでも存続を目指す方向の設置基準で良いんですか？そこに関して皆さんはどうなんでしょう。私個人としては、そちらの方向に向かった次のステップの専門的な知識がある方々に集まっていたらいいけど、可能性を含めたというよりは存続、現状維持に向かった方向の会という考え方であった方が良いのではないかと思います。皆さんの意見がそうであればいいんですが、私としてはそういう方向で考えたいと思います。

(委員)

存続とか統合とかいう言葉をあまり出さずに、奥多摩の子どもたちに、今より、より良い教育を受けさせるにはどうしたらいいかという方向でやっていけば良いと思います。私は今すぐに、委員会を立ち上げて人数とか関係なくやった方が良くと思います。

(委員長)

子どものためにこの会をやっているのだから、すぐやった方が良くといった総意があれば、この基準で、例えばR5年度とかR6年度からという意味合いでも良いのかと思います。ただそれがいつかというのは、今年度と言われると難しいので、例えば来年度とか6年度とかの具体的なお話をいただければと思います。また、他の保護者の方ですとかも居ますので、小学校の代表で来ている方がいますのでそういうのも当然持ち帰っていただき、いろんな意見を聞かなければいけないと思っていますので、例えば難しい基準云々という事であれば先に小規模校のメリット・デメリットで、実際本当にすべての方がどのように思っているのかという部分も併せて行なわせていただければと思いますけど。先ほど委員さんから先に委員会をというお話が出ましたが皆さんとしてはどのくらいがよろしいですか。

(委員)

ちょっとよろしいですか。もう結構時間が経って、その間皆さんの話を聞いたり、考えていたところなんですけど、私は、「(仮称) 新たな奥多摩教育検討委員会」になったらなと読みながら思っていました。皆さんが統合というところの文言の部分、報道も見ましたが、なぜ出たのかとその時思っていました。今、新島委員長の発言でとてもよく分かりました。この会としてみれば、やはり新島課長が古里小のPTA 総会の時の説明から一貫して誤ったことは言っていないと思っているところで、それが今回の報道の方でどうしてそうなったのかなと思ったのですが、今のお話を聞いて理解出来ました。この委員会の根本は何を目指すのかというところで、ずっと考えていましたが、先程委員のお話がありました私と同感で、存続、統合とやり方はあると思うのですが、今の町の状況で子どもたちにとってベストなのは何なのだろうと。それには、どういうのがいいのかと、先程からある同数という保護者アンケートの意見は、相当古いものなので、そこも多分変わってきているかと思うんです。私も前回、中学校統合の時に出席させていただきましたけど、その時の保護者の方の言葉と今の保護者の方とダイレクトに接しているとだいぶ違う。

やっぱり時代が変わってきているなというところがあるので、他の市町村から転入されてきた保護者の方が多いので色々意見が変わっているかと思います。それはそれで新たな数字を基に、次の検討委員会の方が考えれば良いと思います。その検討委員会をもし例えば、どうやって設置するかというと、存続の部分でア～エが出されていて、学校現場で預かる身としてみれば、イというのは難しく、このイ（設置基準を設定する。例えば1学年の平均、未就学児の人数など）に至るまでに前回言ったと思いますが、複式学級制度があるんですね。これをやるには、都の派遣のお金で教員を雇うタイプと、丹波山村のように自治体としてお金を出して雇うケースもありますよ。ただそれだと研修費用、あるいは一定水準というところで、今現在校長の身としてみれば危惧する部分があります。八王子市では、すでに複式学級を導入している学校もあるんですけど、再三やはり導入の拒絶してました。教育課程を組むのに2年生と3年生複式というのは非常に難しいんです。生活科と総合という全然別の教科を同じ時間で1人の方がやっていくというのは、人数にもよりますけど。この先彼らのところは、統合を考えているらしい。そういう段階で今模索しながらやっている、それを例えば奥多摩町で導入するとすると、かなり難しいですね。それを許すかどうかという部分でもこの設置基準の数字が変わってくると思うんですね。ただ、先程から子どもにとっての第一となるあり方は何？とした時に存続という話がありました。それならア（特に基準を設けず、令和5年度、若しくは6年度から設置する）の手段をとって、数字は設定せずに町の計画上無理のない年度から始めていく、そこでアンケートを取りその時の情勢を得て、また検討委員会のメンバーを決めて考えていくのが良いのかなというように私は考えます。自分の意見とするとアをとって、町の考え方をに入れて、ある一定のところから、数字変わりなくその時の情勢で、アンケート結果等を総合して進めていく。イの委員の構成についてもっと考えていった方がいいのかなと思うんですね。そのためには、少人数校のメリット・デメリット、このあたりを含めて、ここで存続重視、統合重視となると話しにくい、出しにくいというのがあると思うので、ナチュラルな意見を学校側、保護者側から集めて決めていくのが良いのかなと思います。今、存続重視ということなので、早急に畳み込むようにやっていかなければいけない状況ではないというのを上手く使って、ナチュラルなところで話をする必要があると思うんです。私個人の意見ですけど、私が今日求められている内容で答弁するとすれば、今以上のものはないです。人選については、答えかねるので、保護者、先生の代表、行政の代表、そこまでは絞れますけど、もうそれ以上答えはないので、時間が経過しても何も出てこないです。

(委員長)

はい、有難うございます。他にご意見はありますか？

ちょっと時間も経ってききましたので、今全部を纏めるというのはなかなか難しいので、次回の会議で続きをしたいと思います。今日のご意見をまた纏めさせていただきます。またその間に教育委員会の定例会もありますので、そこで出たご意見等を含めて、改めて話をしていきたいと思っております。よろしく願いいたします。

協議事項については以上ですので、事務局の方へお返しします。

(事務局 鈴木教育係長)

新島委員長、議事進行を有難うございました。

5. その他

それでは、次に5のその他ですが何かございますか？ （全員…特になし…）

（事務局 鈴木教育係長）

それでは、次に次回の日程ですが、来年の1月10日（火）午後7時より役場地下1階会議室にて行いますのでどうぞよろしく願いいたします。

6. 閉会

それでは閉会となります。閉会のご挨拶を渡辺副委員長お願いいたします。

（副委員長）

本日は長い時間ご協議いただきまして有難うございました。また事務局の方々におかれましては、資料をご用意いただきまして纏めるのも大変だったと思います。

改めて、資料4を拝見して10月1日現在の人口4797人。うち847人が定住対策事業ということですが、それをしていなかったら、3千人台だったかもしれないということですね。この資料を出していただいてよく分かった次第です。奥多摩の教育に対する委員の方々の思いが、溢れているがためになかなか決まらず次回へ持ち越しとあるかもしれませんが、ぜひその思いを少しずつ、次回の会議で検討していきたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。

（事務局 鈴木教育係長）

有難うございました。

それでは第2回小学校あり方検討委員会を終了させていただきます。

本日は大変有難うございました。